

国語（読解） 解答例

《一》賢者の贈り物①

一 要約の解答例

質素なアパートの一室に若い夫婦が住んでいた。夫、ジムの収入が減ってしまい、夫婦は貧しかったが、妻、デラは夫を深く愛していた。明日はクリスマス。大切な夫にプレゼントを買うために、デラはこれまでコツコツとお金を貯めてきたが、全部で一ドル八十七セントしかない。プレゼントを買うには少なすぎる。悲しい思いに沈んでいたデラは、ふとあることを思いつき、涙をぬぐい鏡の前に立った。そして自分の長い髪を下ろして眺めた。

八百屋 やおや	浮浪者 ふろうしゃ	機敏 きびん	小銭 こぜに
物憂げ ものう	筆舌 ひつぜつ	微笑み ほほえ	一掃 いつそう
慎ましい つつ	無理矢理 むりやり	繁栄 はんえい	羽織る はお
塀 へい	把握 はあく	会得 えとく	垂らす た
映る うつ	縮める ちぢ	所有物 しよゆうぶつ	姿見 すがたみ

《二》賢者の贈り物②

一 要約の解答例

ジェームズ・デイリング・ヤング家には、誇るべきものが二つあった。ひとつは祖父から父へ、父からジムへと譲り受けられた金時計である。もうひとつはデラの宝石や宝物より美しい長い髪である。デラは自分の美しい髪を二十ドルで売り、そのお金でジムへの贈り物にプラチナの時計鎖を買った。そして美しい髪を失った自分を夫がどう思うか心配しながら、短くなった髪にヘアアイロンでカールをつけ、何とか整えようとした。

《三》賢者の贈り物③

一 要約の解答例

髪を切ったデラは祈る思いでジムの帰りを待った。帰ってきたジムが奇妙な表情で立ちすくむのを見て、デラは髪を売ってジムへのプレゼントを買ったことを話した。ジムはデラの髪型に驚いたのではなかった。長い髪に飾るために、金時計を売って美しい櫛を買ったのだった。二人は最も素晴らしい宝物を互いのために台無しにしてしまった。しかし、彼らこそ贈り物をやりとりするすべての人の中で最高の賢者ではないだろうか。

二 説明の解答例

二人とも愛する人に最高の贈り物をするために、自分が持っている最も価値のあるものを売ってしまった。その贈り物は結果的には役に立たない贈り物になってしまったが、お互いがいかに大切な存在であるかを確認することができた。最高の贈り物とは最高の真心と愛情を相手に贈ることだということを、二人の行いは示している。

《九》日本の伝説①

一 要約解答例

日本は伝説が多い国だが、次第に語り手が少なくなってきた。それを惜しんで、私はこの本を書いた。昔話は動物のように日本国中に散らばっていくが、伝説は植物のように土地に根を生やして成長していく。歴史はそのような伝説を利用して整理されていく。歴史が整頓されていくと、伝説の野山は狭くなるが、しかしそれもまだほんの少しであり、伝説のままだ残されているものの方が多い。子どもたちは面白い話だけを読んで楽しんでほしい。

二 解答例

①昔話は自由に移動する動物のように、日本の中のさまざまな地方に伝わり広がっていくから。

②伝説は根の生えた植物のように、ある土地に根付いてそこで常に成長していくから。

《十》日本の伝説②

一 要約解答例

昔の人々は、水を確保するために川や池に出かけたり、笥を架けて水を引いたりしていたので、離れた所に住むことができなかった。地方を行脚していた空也上人は水を見つけることが上手で、多くの村々で良い泉を見つけては土地の人々に念仏の教えとともに伝えた。土地の人々は念仏の合唱とともに水の恵みと念仏池の不思議を思い、そこに神様を祭った。泉周辺と念仏の信仰が結びつくのはそのためかもしれない。

《十一》日本の伝説③

一 要約解答例

伝説によると、空也上人より多くの泉を見つけた御大師様という人がいるが、多くの土地で御大師を弘法大師のことだと思われている。実際の弘法大師は遠方を旅することはできなかったはずだが、全国各地に弘法大師が残した泉や不思議話が残っている。日本中を歩きまわり、どこでも同じような不思議を残していくことを、人々は、神様だと思わず、誰か昔の偉い人にちがいない、それは弘法大師であると想像したのではないだろうか。

二 解答例

弘法大師は中国で修行をした後、高野山を開き、書物を書き、多くの仕事を残したが、日本中を遠方まで旅することはできなかったはずである。しかし、全国各地に弘法大師が残した泉や不思議話が残っている。日本中を歩きまわり、どこでも同じような不思議を残していくことを、人々は、神様だと思わず、誰か昔の偉い人にちがいない、それは弘法大師であると想像し、それが伝説として言い伝えられたのではないかと考えられる。

《十二》檸檬①

一 要約解答例

私は、えたいの知れない不吉な感情をもてあましながら、街から街へとさまよい歩いていた。毎日深酒し、不健康でずさんな生活や借金に加え、漠然とした焦燥や嫌悪感を抱え、自分が住んでいる町、京都から逃げ出して、誰一人知らないところへ行きたいと思っていた。憂鬱な気持ちでさまよい歩くうちに、ある果物屋の前で足を止めた。その店の周囲は妙に暗く、低く下がったひさしの下には電燈の光がそこだけ絢爛と美しい眺めを照らし出していた。

《十三》檸檬②

一 約解答例

私はその店で檸檬を一つ買った。檸檬の色や形や重み、感触や匂いに元気が蘇ってきた。そして、以前は好きだったが今では重苦しく感じる丸善に入ってみる気になった。丸善で画集をバラバラとめくるが気持ちは浮かない。何冊も抜き出しては重ねるうちにある事がひらめいた。画集を何冊も積み重ね、その上に檸檬を置いてそのまま店を出るのだ。黄金色の爆弾が美術の棚を中心に大爆発をしたらという想像に、私の気持ちはくすぐられた。

二

硝子 がらす	駄菓子 だがし	嗅覚 きゅうかく	塊 かたまり
棚 たな	趣 おもむき	錯覚 さっかく	洗濯物 せんたくもの
悪漢 あつかん	埃 ほこり	克明 こくめい	臭い におい
彩る いろど	露骨 ろこつ	辛抱 しんぼう	触觉 しょっかく

ちんたいりょう 賃貸料	あいしよう 愛称	しんりやく 侵略	おじょうさん お嬢さん
そうぎ 葬儀	さしえ 挿絵	ゆうび 優美	にぎる 握る

二 解答例

肺炎という病魔は礼儀を心得ているとはいえませんでした。凶暴で極悪な悪漢が、温暖なカリフォルニアで育ち、弱っている小柄な女性に襲いかかるといふのはフェアプレイとは言えません。しかし、肺炎の病魔はジョンジーに襲いかかりました。

三 解答例

患者が生きる希望を失い、自分の葬式のことを考え始めたら、せっかく薬を飲んでも効き目が半減してしまう。

四 解答例

ジョンジーは生きる気力を失い、窓の外に見えるつたの葉っぱの最後の一枚が散るときに、自分も死ぬのだと思っっているから。

五 要約解答例

スーとジョンジーは、グリニッチ・ヴィレッジの屋根裏部屋に共同のアトリエを借りていた。十一月になり冷気とともに肺炎が流行すると、カリフォルニア出身のジョンジーは肺炎に罹り、ベッドから起き上がれなくなった。生きる気力をなくしたジョンジーは、窓の外に残ったつたの葉を数えながら、最後の一枚が散るときに自分も死ぬのだと言った。スーはジョンジーを励まして眠るようにといい、年老いたベアマンさんのところへ行った。

靴 くつ	震える ふるえる	幻想 げんそう	傑作 けっさく
部屋 へや	廊下 ろうか	孤独 こどく	広告 こうこく
肺炎 はいえん	看病 かんびよう	小柄 こがら	雇う やとう
危険 きけん	散る ちる	無慈悲 むじひ	軟弱 なんじやく

二

一 解答例

四十年間、絵を描き続けてきたが、一枚も傑作は描けなかった。

三 解答例

最後の一葉が散ると自分も死ぬと思っていたが散らずに残っているため、死にたいと思っ
 ってはいけないということに気づいた。ワインを入れたミルクで体を温め、スープで栄養を
 取って元気になろうと思った。そして、鏡で自分の顔色を確認し、ベッドに起き上がってス
 ーが料理をするところを見たくなくなった。ジョンジーは生きる気力を取り戻し、回復するた
 めの努力をはじめたのだ。

四 解答例

肺炎を治し元気になって、美しいナポリ湾の絵を描くためにイタリアに行きたいという
 明るい希望がこもっている。

五 感想…自由記述